

平成18年度事務事業評価表

担当	市民病院	事務局	内線等	1100
----	------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	医療情報管理事務事業				
根拠法令等	蒲郡市民病院処務規定		A 法令	B 条例	C 規則	D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	医療
------------------	----

事務事業の内容

対象（受益者）	医療情報システムの
手 段	操作の問合せや故障時の連絡調整を迅速に対応することにより
想定する成果	システムを安定して稼働させる

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
延入院患者数	130,116人	120,490人	129,100人
延外来患者数	262,495人	236,386人	244,000人
診療行為データ数	1,828,413件	1,673,078件	1,765,800件

成果指標

成果指標名	患者1人あたりの診療行為データ数	年間問合せ等件数
成果指標の説明	診療行為数 / (延入院患者数+延外来患者数)	操作等の問合せや医療情報システム及び機器にかかるトラブル対処件数 (レセ再出力依頼除く)

事業の進捗状況 (病院事業会計)

(千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	4.73件
	実績	4.66件	4.69件	-
成果指標	計画	-	-	400件
	実績	313件	937件	-
事業費	事業費	21,632	24,693	33,700
	人件費	16,088	15,568	15,778
	(人数)	2.0	2.0	2.0
	合計	37,720	40,261	49,478
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	37,720	40,261	49,478

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	電子カルテの導入により一時的に業務量が増えたが、システムの停止などの重大なトラブルは回避できている。
経済効率性	2	2	2	2	業務委託により1名の専任スタッフを配置。経費を抑えながらも成果を上げている。
事務効率性	2	2	2	2	職員の業務ウェイトを減らしながら、重要度を増し続けている経営分析業務を充実させている。
必要性	-	3	-	3	医療情報システムの運用効率を確保し、以って日常医療業務を遂行するためには欠かせない事業である。
小計	6	9	6	9	
施策への貢献度	3	-	3	-	医療情報システムは、病院事業には欠かせない機能であり、施策「医療」への貢献度は大きなものがある。
合計	9	9	9	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	情報化が進むにつれ重要度を増す業務である。
------	---	---	---	---	-----------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> ・担当者にPHSを携帯させ、迅速な対応ができるようにした。 ・新任者等への操作研修を実施。職員のスキルアップを図ることにより、相互サポートを充実させた。 ・必要なときにサポートできる人的体制を教育により整えた。 	

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> ・問合せや障害対応依頼のあったものに対してどのように対処したかを院内で情報共有し、職員のスキルアップにつなげるしくみづくりが必要。 ・情報化が進むにつれ、情報システム担当職員の業務量は拡大する一方だが、県下公立病院の職員配置状況を比較しても、当院の担当職員数（委託職員を含む）は少なく、増員が必要

平成20年度予算に反映する項目

委託職員数の増員

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	市民病院	事務局	内線等	1100
----	------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	診療報酬請求事務事業				
根拠法令等	健康保険法第43条9		A 法令	B 条例	C 規則	D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	医療
------------------	----

事務事業の内容

対象(受益者)	外来・入院患者の
手 段	診療報酬明細書(レセプト)を迅速かつ適切に作成することにより
想定する成果	適正な診療報酬を確保し、病院の健全経営に資する

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
レセ請求総枚数	162,504枚	176,832枚	165,000枚
うち保留枚数	258枚	1,434枚	250枚
うち返戻枚数	919枚	1,042枚	900枚

成果指標

成果指標名	レセの保留率	レセの返戻率
成果指標の説明	$(\text{保留枚数} \div \text{請求総枚数}) \times 100$	$(\text{返戻枚数} \div \text{請求総枚数}) \times 100$

事業の進捗状況 (病院事業会計)

(千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	0.15%
	実績	0.16%	0.81%	-
成果指標	計画	-	-	0.55%
	実績	0.57%	0.59%	-
事業費	事業費	16,411	16,555	16,380
	人件費	24,132	22,574	22,878
	(人数)	3.0	2.9	2.9
	合計	40,543	39,129	39,258
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	40,543	39,129	39,258

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	電子カルテ導入の混乱から18年度の成果指標は芳しい数値となっていないが一時的なものと考えている。
経済効率性	2	2	2	2	事務を委託しており、費用対効果では優れている。
事務効率性	2	2	2	2	事務を受託している業界の慢性的な人材不足があり、今以上の事務効率を求めることが難しい。
必要性	3	3	3	3	医療行為を収入につなげる重要な業務であり、病院に欠かせない業務である。
小計	9	9	9	9	
施策への貢献度	2	-	2	-	重要な業務であり、貢献度は大きい
合計	11	9	11	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	専門性が問われる重要な業務であり、もはや正規職員がこれを行う体制をとることは難しい。業務委託による経済効率性を確保したうえで、事務効率性をさらに引き上げることが課題
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
保留になりがちであった生活保護患者について、窓口である市福祉課との連絡方法を改善し、保留分の減少に努めている。	

今後改善すべき点

委託会社社員の業務知識の向上が最大の課題。電子カルテに対する医師の習熟度が増し、出来高制から包括制へと診療報酬の請求形態が変化しても、医療行為を単純にどちらかに区分できるわけではないため、委託会社の質の向上、すなわち経験豊富な委託会社社員の確保は欠かせない。

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	市民病院	事務局	内線等	2124
----	------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	病院ボランティア事務局事務事業		
根拠法令等	蒲郡市民病院ボランティア活動受入要綱	A 法令	B 条例	C 規則	D その他

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	医療
------------------	----

事務事業の内容

対象（受益者）	患者様に
手 段	病院ボランティアをコーディネートすることで
想定する成果	よい状態のもとで安心して治療を受けられるようにし、患者サービスの向上を図る。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
年間延活動人数	472人	476人	486人
実診療日数	244日	245日	244日
年間業務件数	16,897件	17,934件	18,500件

成果指標

成果指標名	1日当たりの業務件数（件）	1人当たりの業務件数（件）
成果指標の説明	年間業務件数/実診療日数	年間業務件数/年間延活動人数

事業の進捗状況（病院事業会計）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	—	—	75.8件
	実績	69.3件	73.2件	—
成果指標	計画	—	—	38.1件
	実績	35.8件	37.7件	—
事業費	事業費	330	333	371
	人件費	1,609	2,335	2,367
	(人数)	0.2	0.3	0.3
	合計	1,939	2,668	2,738
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	1,939	2,668	2,738

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	1日当たり業務件数が前年比で3.9件増え、1人当たり業務件数が1.9件増えた。平成17年度には市長対話「ざっくばらん」へ参加。
経済効率性	2	2	2	2	有償ボランティアであるが、地域に開かれた病院として好意的に活動をしていただいている。
事務効率性	2	2	2	2	病院ボランティアとして事務効率に協力をいただいている。
必要性	2	2	2	2	地域のボランティアの方による活動は、医療・サービスの質の評価・改善のために、継続的に必要である。
小計	8	8	8	8	
施策への貢献度	2	2	2	-	地域の中核病院として「より明るくさわやかな病院に」と、この趣旨にご賛同頂いた市民の方々によるボランティア活動である。
合計	10	10	10	8	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	市民病院の今後のあり方として、医療・サービスの質の評価・改善のために、市民の方の新たなボランティア活動が必要である。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
患者様の側に立って少しでもお役に立つことを目標に平成17年度にボランティア活動マニュアルを作成した。市民の立場から見た病院内トイレの位置標示や玄関前の駐停車禁止掲示等、わかりやすい標示方法、場所に改善した。玄関前の車イスや、シルバーカー、院内図書コーナーの整理整頓に努めた。	

今後改善すべき点

新たなボランティア活動の掘起こしをするために、ボランティア活動内容や人員・時間の検討が必要である。

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	市民病院	事務局	内線等	1100
事業コード		事務事業名	紙カルテ等管理事務事業	
根拠法令等	医師法		A法令	B条例 C規則 Dその他 Eなし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	医療
------------------	----

事務事業の内容

対象(受益者)	患者さまの
手 段	紙カルテ等を効率よく確実に管理することにより
想定する成果	円滑な診療を保証する

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
紙カルテ等管理件数	169,377ファイル	182,913ファイル	183,500ファイル
補修分冊した紙カルテ等の数	360ファイル	270ファイル	30ファイル
新規作成紙カルテ数	5,563ファイル	3,905ファイル	0

成果指標

成果指標名	紙カルテ等の棄損率	紙カルテ増加率
成果指標の説明	補修分冊したカルテ等の数 / カルテ等管理件数 × 100	新規作成カルテ数 / 前年度末カルテ等管理件数 × 100

事業の進捗状況 (病院事業会計)

(千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	0.0%
	実績	0.2%	0.1%	-
成果指標	計画	-	-	0.0%
	実績	3.4%	2.3%	-
事業費	事業費	18,110	18,270	18,000
	人件費	4,022	3,892	3,945
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	22,132	22,162	21,945
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	22,132	22,162	21,945

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	3	-	3	-	単独で施錠可能な区画に収納し、適切な情報保護と医師等からのニーズに確実に対応している。
経済効率性	2	-	2	-	事務を委託しており、費用対効果では優れている。
事務効率性	2	-	2	-	アリバイ管理をシステム化しており、事務効率を確保している。
必要性	-	-	-	-	医師法第24条に診療録の管理について明記されており、医療において欠かせない業務である。
小計	7	-	7	-	
施策への貢献度	2	-	2	-	重要な業務であり、貢献度は大きい
合計	9	-	9	-	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	-	B	-	医師法に診療録の保存について規定されており、診療録以外の個人情報も同様に扱っている。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> 平成10年度から診療科別のカルテを患者1人に1つのカルテとした 平成19年1月から電子カルテシステムを導入 	

今後改善すべき点

<p>H19.1から電子カルテが導入され、新規作成のカルテはなくなったが、各種承諾書などの書類を別に管理する必要は継続しており、必要な個人ファイル数は1カ月で約1000件増加している。一方、セキュリティを確保できる収納スペースが限られているため、保存年限等の見直しが必要となっている。（診療録は、医師法では5年保存とされているが、当院では外来カルテを10年保存、入院カルテを永年保存として、レントゲン写真や個人ファイルはこれに準じた扱いとしている。）</p>

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】